



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	英語コミュニケーション I		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：選択	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：401	
科目目標	① 英語の基本的な語彙や文構造を理解し、日常的な事柄について英語で表現できる。 ② 保育園や幼稚園の現場において、英語でコミュニケーションをとることができる。			
授業概要	保育園や幼稚園の現場において英語力が必要とされる場面が増えてきている。そこで、これらの現場において役に立つ英語表現を身につけるために、英語の基本としての文構造やそれに伴う語彙を学び、習得する。また、現場で想定される日常的な英語での会話や自己表現に取り組む。			
授業計画	項目		内容	
	1	授業に関わるガイダンス	授業の内容、プレテストと成績評価について	
	2	be 動詞の基礎知識	be 動詞の用法と人称代名詞・数についての理解と演習	
	3	be 動詞の会話演習	be 動詞を使った表現の会話演習	
	4	一般動詞（現在形）	一般動詞現在形の用法についての理解と演習	
	5	一般動詞の会話演習①	一般動詞（現在形）を使った表現の会話演習	
	6	現在進行形	現在分詞形と現在進行形の理解と演習	
	7	一般動詞（過去形）	一般動詞過去形の用法についての理解と演習	
	8	一般動詞の会話演習②	一般動詞（過去形）を使った表現の会話演習	
	9	助動詞	助動詞を用いた表現の理解と演習	
	10	未来形	will や be going to を用いた表現の理解と演習	
	11	疑問詞	だれ、何、どこ等の疑問詞の用法についての理解と演習	
	12	間接疑問文	文中における疑問詞を含む用法の理解と演習	
	13	形容詞と副詞	形容詞・副詞とその同等比較の用法についての理解と演習	
	14	比較級・最上級	形容詞・副詞の比較級、最上級についての理解と演習	
15	比較級の会話演習	比較級を使った表現の会話演習		
評価の方法・基準	授業態度及び課題への取り組み 50%、試験 50%			試験実施方法：筆記
テキスト	英語コミュニケーション（弘徳学園）			
必要な事前知識				
講師からのコメント	日常生活に使用されている英語に興味を持って取り組んでください。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	英語コミュニケーションⅡ		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 選択	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	① 英語の基本的な語彙や文構造を理解し、日常的な事柄について英語で表現できる。 ② 保育園や幼稚園の現場において、英語でコミュニケーションをとることができる。			
授業概要	保育園や幼稚園の現場において英語力が必要とされる場面が増えてきている。そこで、これらの現場において役に立つ英語表現を身につけるために、英語の基本としての文構造やそれに伴う語彙を学び、習得する。また、現場で想定される日常的な英語での会話や自己表現に取り組む。			
授業計画	項目		内容	
	1	授業に関わるガイダンス	授業の内容、プレテストと成績評価について	
	2	受動態	受動態の用法についての理解と演習	
	3	完了形①	現在完了形の用法についての理解と演習①	
	4	完了形②	現在完了形の用法についての理解と演習②	
	5	命令文	命令、要求、禁止等を表現する用法の理解と演習	
	6	感嘆文	喜び、悲しみ、驚き等を表現する用法の理解と演習	
	7	5文型	5文型についての理解と演習	
	8	現在分詞形容詞用法	形容詞的用法の理解と保育英語の演習①	
	9	過去分詞形容詞用法	形容詞的用法の理解と保育英語の演習②	
	10	動名詞	動名詞の理解と保育英語の演習③	
	11	不定詞①	名詞的・形容詞的用法の理解と保育英語の演習④	
	12	不定詞②	副詞的用法の理解と保育英語の演習⑤	
	13	様々な修飾語句	修飾語句の理解と保育英語の演習⑥	
	14	様々な動詞表現	仮定法の理解と保育英語の演習⑦	
15	1年間のまとめ	1年間の学習のまとめとテスト対策		
評価の方法・基準	授業態度及び課題への取り組み 50%、試験 50%			試験実施方法：筆記
テキスト	英語コミュニケーション (弘徳学園)			
必要な事前知識				
講師からのコメント	日常生活に使用されている英語に興味を持って取り組んでください。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育者のための国語Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 前期	単位区分： 選択	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	① 読みやすく、わかりやすい文章が書ける。 ② 場面に応じた適切な言葉で表現ができる。			
授業概要	保育者は、保育の現場で常に言葉を発し、毎日文章を書いている。本科目は、保育実習で学んだ「言葉の重要性」を再認識し、子ども・保護者・保育者とのさまざまな関わりの場面で、的確で豊かな表現ができる国語力を培うことを目標とする。			
授業計画	項目		内容	
	1	作文①/国語文法/漢字	作文「実習で学んだこと」シート作成/基礎学力演習 lesson8	
	2	作文②/国語文法/漢字	作文「実習で学んだこと」/基礎学力演習 lesson9.10/漢字 P66-69	
	3	小論文①/国語文法/漢字	小論「保育士の役割」シート作成/基礎学力演習 lesson11、12/漢字テスト	
	4	小論文②/国語文法/漢字	小論「保育士の役割」/基礎学力演習 lesson13、14/漢字 P100-103	
	5	文章作り①/国語文法/漢字	短文練習/基礎学力演習 lesson15、16/漢字テスト	
	6	文章作り②/国語文法/漢字	短文練習/基礎学力演習 lesson17.18/漢字 104-108	
	7	作文③/国語文法/漢字	「園だより」作成/基礎学力演習 lesson19、20/漢字テスト	
	8	作文④/国語文法/漢字	「園だより」作成/基礎学力演習 lesson21.22	
	9	小論文③/国語文法/漢字	小論「少子化対策」シート作成/基礎学力演習 lesson23.24	
	10	小論文④/国語文法/漢字	小論「少子化対策」/基礎学力演習 lesson25.26	
	11	文章作り③/国語文法/漢字	短文練習/基礎学力演習 lesson27.28	
	12	文章作り④/国語文法/漢字	短文練習/基礎学力演習 lesson29.30	
	13	作文⑤/漢字	自己PR文章作成(周りの人に映る自分も確認する)	
	14	作文⑥/漢字	自己PR文章作成	
15	総復習	試験対策		
評価の方法・基準	小テスト・作文小論(40%) 定期試験(40%) 授業態度(20%) 結果合計を5段階評価			試験実施方法：小論・漢字
テキスト	保育学生のための基礎学力演習		保育の基本用語	
必要な事前知識	テキストの授業範囲を予習する			
講師からのコメント	伝えたいことがうまく伝えられる文章が書けるように！			
備考	教材として、新聞・雑誌等からも保育や社会問題に関する文章を取り上げることがある			



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	保育者のためのパソコン演習Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：後期	単位区分：選択	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：201	
科目目標	① オフィスソフトの基本操作をマスターする。 ② 効率よく、見栄えの良い資料の作成が行える。 ③ ビジネスでよく使われる計算式、関数を用いた表計算が出来る。 ④ さまざまな表、グラフの作成が行える。 ⑤ テーマに即した資料の作成を行い、情報豊かで説得力のあるプレゼンテーションが行える。			
授業概要	パソコンを使用することにより時間短縮、作業の幅を広げ効率化できるものがある。本科目では、1年次に習得したオフィスソフト（Word・Excel・PowerPoint）の基本技術を活用し、より短時間で見栄えの良い資料の作成が行えるようにし、仕事の場で即戦力となれるようなスキルを身につけることを目的とする。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	1年次復習	
	2	プレゼンテーションⅠ	基本操作復習、アニメーションの設定	
	3	プレゼンテーションⅡ	アプリ間でデータを共有（WordとPowerPoint）	
	4	Word活用Ⅰ	表の作成	
	5	Word活用Ⅱ	アプリ間でデータを共有（ExcelとWord）	
	6	Word応用	名刺の作成	
	7	Excel活用Ⅰ	様々なグラフの作成	
	8	Excel活用Ⅱ	データベース機能、条件付き書式	
	9	Excel復習	練習問題	
	10	Excel活用Ⅲ	関数の利用	
	11	Excel応用Ⅰ	「名簿」の作成（入力規則含む）	
	12	Excel応用Ⅱ	「カレンダー」の作成	
	13	Word&Excel活用Ⅰ	「園だより」の作成	
	14	Word&Excel活用Ⅱ	図形処理	
15	振り返り	まとめ		
評価の方法・基準	授業態度20%、課題提出30%、試験50%			試験実施方法：実技
テキスト	よくわかるMicrosoftWord2016&Excel2016&PowerPoint2016（FOM出版）			
必要な事前知識				
講師からのコメント	次回の授業範囲について、事前に教科書範囲を予習する（読む）こと			
備考	必要に応じて、プリントの配布あり			

シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1

日

科目名	キャリア演習Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：通年		単位区分：必修	単位数：2
週授業時間：2時限	授業回数：30回		授業形態：演習	教室形態：301
科目目標	① 進級後早期から就職活動に取り掛かり、12月末までの内定を目指す。 ② 保育者として自己のキャリア形成への意識を高め、子どもの最善の利益に貢献すべく質の高い保育を追求する。			
授業概要	① 自らのキャリアデザインを明確にすることで、保育業界における早期就職内定を目指す。 ② 1年次の行事（学園祭）の反省を踏まえながら、今年度も新たなテーマを掲げて積極的に取り組む。 ③ 2年間を振り返り、保育者としてキャリアを踏み出すために学び得たことを仲間と共有し、お互いの思いを尊重する。			
授業計画	項目		内容	
	1	就職活動準備①	自己理解①「今の自分について」	
	2	就職活動準備②	自己理解②「今の自分について」	
	3	就職活動準備③	履歴書の書き方 志望動機等作成	
	4	就職活動の流れについて	エントリー、試験、入職（内定） 承諾書、内定報告書、添え状（お礼状）	
	5	キャリアデザイン①	紹介会社等サイト登録の注意点	
	6	キャリアデザイン②	進路研究① 業種、場所、勤務先候補、優先事項	
	7	キャリアデザイン③	進路研究② 業種、場所、勤務 先候補、優先事項	
	8	キャリアデザイン④	進路研究③ 体験や訪問の発表①	
	9	キャリアデザイン⑤	進路研究④ 体験や訪問の発表②	
	10	模擬面接①	模擬面接に向けて①	
	11	模擬面接②	模擬面接に向けて②	
	12	模擬面接③	模擬面接①	
	13	模擬面接④	模擬面接② 振り返り	
	14	行事に向けた実践活動①	行事（学園祭）に向けた準備、確認①グループワーク実践	
	15	行事に向けた実践活動②	行事（学園祭）に向けた準備、確認②グループワーク実践	
	16	行事に向けた実践活動③	行事（学園祭）の実行	
	17	保育士登録手続き①	「保育士登録の手引き」配布、記入の説明	
	18	内定後の流れについて	入職（内定） 承諾書、内定報告書、添え状（お礼状）	
	19	社会保険 年金	外部講師による講座(日本年金機構)	
20	課題作成①	就労に向けて不足していると思われること① 課題は自由に決める		

	21	課題作成②	就労に向けて不足していると思われること②
	22	課題発表①	発表①
	23	課題発表②	発表②
	24	課題発表③	発表③
	25	就職に向けて①	ビジネス実務①
	26	就職に向けて②	ビジネス実務②
	27	卒業に寄せて①	課題「2年間で学び得たこと」
	28	卒業に寄せて②	発表「2年間で学び得たこと」
	29	キャリア形成まとめ①	課題「10年後の自分について」
	30	キャリア形成まとめ②	発表「10年後の自分について」
評価の方法・基準	授業態度 40%、提出物 30%、発表 30%		試験実施方法：授業内評価
テキスト	特になし		
必要な事前知識			
講師からのコメント	興味と好奇心を持って、「自分から調べる」「他者の意見を聞き入れて理解しようと努める」という態度で授業に臨んで欲しい。		
備考			



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	子ども家庭支援論		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：後期	単位区分：必修	単位数：2	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：講義	教室形態：401	
科目目標	① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明することができる。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、説明することができる。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について自ら掘り下げて考えることができる。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解し、説明することができる。			
授業概要	保育士が行なう相談等の子ども家庭支援の意義と基本を理解した上で、子育て家庭の支援体制「支援の展開と関係機関との連携について掘り下げて考える。			
授業計画	項目		内容	
	1	子ども家庭支援の意義と必要性	・子ども家庭支援の意義と目的	
	2	子ども家庭支援の目的と機能	・子ども家庭支援の原則と機能	
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	・子育て支援・次世代育成支援の背景 ・子ども・子育て関連3法の概要と実施	
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	・子育て家庭を支える社会資源の担い手 ・社会資源活用の現状と課題	
	5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	・保育の専門性を活かした子ども家庭支援 ・子ども家庭支援における留意事項	
	6	子どもの育ちの喜びの共有	・子どもの育ちの喜びの共有を考える ・子どもの育ちの喜びの共有の具体例	
	7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	・保護者に対する支援 ・地域に対する支援	
	8	保育士に求められる基本的態度	・保育士と保護者の信頼関係 ・バイステックの7原則	
	9	家庭の状況に応じた支援	・家庭の状況に応じた支援とは ・家庭の状況に応じた支援を行なうための姿勢	
	10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	・社会資源活用の実際と開発 ・地域に必要とされる保育者のあり方と専門性の向上	
	11	子ども家庭支援の内容と対象	・子ども家庭支援の形態 ・相談援助技術を活用した子ども家庭支援	
	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	・保育所等を利用する子どもの家庭への支援	
	13	地域の子育て家庭への支援	・地域の子育て家庭への支援	
	14	要保護児童およびその家庭に対する支援	・要保護児童の全体像 ・親子関係の再構築支援	
15	子育て支援に関する課題と展望	・子育て支援ニーズの多様化 ・連携機関の多様化		
評価の方法・基準	期末試験 100%		試験実施方法：筆記	
テキスト	特になし（参考書）新基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論（中央法規）			
必要な事前知識	特にありませんが、復習の際は図書室にある上記参考書を参照してください。			
講師からのコメント	生活介護事業、就労継続支援事業で福祉心理士・社会福祉士・精神保健福祉士として携わった教員が、保育士が行なう相談等の子ども家庭支援の意義と基本を理解した上で、子育て家庭の支援体制「支援の展開と関係機関との連携について掘り下げて考える。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育者論		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年	開講期間：後期	単位区分：必修	単位数：2	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：講義	教室形態：401	
科目目標	① 確固たる教育・保育観を持ち、理想の保育者を目指す ② 保育者の制度的位置づけ、専門性を理解するとともに子ども理解を深める ③ 子ども支援の在り方、職員間の協働、保護者への支援と連絡、地域・小学校等の連携について理解する ④ 常に「子どもの命を守る」信念を持つことができる ⑤ 保育者の任用、服務、職場環境を理解する			
授業概要	昨今の教育・保育の重要性の高まりのなか、なぜ保育者（保育士・幼稚園教諭）を目指すのか、また、今日的教育・保育の課題は、保育者の力量とは何か等を考えさせながら、子どもの成長発達に指導、助言する職業であることを理解し、使命感、責任感を持ち、諸課題に立ち向かう、実践力のある学生の育成を図る。			
授業計画	項目		内容	
	1	保育者をめざす（保育者の定義、職務）	・なぜ、保育士、幼稚園教諭を目指すのか/保育者の職業分類 ・保育士、幼稚園教諭の役割と職務内容/倫理綱領他	
	2	保育者の歴史	・保育者の呼称 ・保育者の法的取り扱い	
	3	保育者の任用・服務	・保育士・幼稚園教諭になる ・服務・服務規程・懲戒等/実践演習①	
	4	保育計画・内容（保育所）	・保育の特性と保育計画（保育課程） ・保育所と保育所保育指針	
	5	教育課程・内容（幼稚園）	・幼稚園と教育課程/認定こども園・小・中・高・特別支援学校等 ・幼稚園と幼稚園教育要領/実践演習②	
	6	教育課程・内容（幼稚園）	・幼稚園と教育課程/認定こども園・小・中・高・特別支援学校等 ・幼稚園と幼稚園教育要領/実践演習③	
	7	保育者の職場環境	・勤務 ・人間関係/実践演習④	
	8	教育・保育の実習	・実習の意義と目的 ・実習の進め方と課題	
	9	保育者の資質・役割	・童心を作る・保育者の専門性・資質能力の形成過程 ・保育者に求められる責務/実践演習⑤	
	10	今日的な教育・保育課題	・待機児童・虐待・いじめ・感染症等 ・保育士不足等	
	11	環境・遊び	・環境・遊びは人を作る ・遊びの類型/実践演習⑤	
	12	研修・研究	・研修の意義、研究課題 ・研修の種類及び態様（官制・職場・外部・自己等）	
	13	職員間、幼保小の連携・接続	・情報の共有 ・幼保小連携の意義/実践演習⑥	
	14	評価、各種要録等の作成	・自己及び施設評価/保育所児童保育・幼稚園幼児指導・幼保連携型認定こども園 園児指導・特別支援学校幼稚園部幼児指導要録	
15	履修内容の確認	・保育者として(資質、使命感、能力、力量、研修等) ・履修内容の確認		
評価の方法・基準	・授業態度（集中、意欲等）20%、小テスト（基礎・基本の充実）30%、試験50%		試験実施方法：確認テスト	
テキスト	・保育所保育指針解説(厚生労働省：(株)フレーベル館) ・幼稚園教育要領解説(文部科学省：(株)フレーベル館)			
必要な事前知識	・前時授業の確認及び本時の目当てをもつ			
講師からのコメント	公立幼稚園での園長経験のある教員が、昨今の教育・保育の重要性の高まりのなか、なぜ保育者（保育士・幼稚園教諭）を目指すのか、また、今日的教育・保育の課題は、保育者の力量とは何か等を考えさせながら、子どもの成長発達に指導、助言する職業であることを理解し、使命感、責任感を持ち、諸課題に立ち向かう、実践力のある学生の育成を図る。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	子ども家庭支援の心理学		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：必修	単位数：2	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：講義	教室形態：401	
科目目標	① 生涯発達の基礎的な知識について理解し、保育・教育する基礎を培う。 ② 子育てを取り巻く現代の社会的状況と課題について理解し、保育・教育する基礎を培う。 ③ 子どもの精神保健と課題について理解し、保育・教育する基礎を培う。			
授業概要	乳幼児期はその後の長い人生の中で、もっとも大切な人格形成の時期である。 保育の場で出会う子どもや家庭への援助に必要な、生涯発達の視点や知識を学び発達援助や子育て支援の基礎を培う。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	子ども家庭支援に関わる心理学とは、この科目から何を学びたいか	
	2	生涯発達	ライフサイクルとライフコース・生涯発達からみた心の問題と家族・演習課題	
	3	発達課題と援助①	乳幼児期から学童期前期・演習課題	
	4	発達課題と援助②	学童期後期から青年期・演習課題	
	5	発達課題と援助③	成人期・老年期における発達・演習課題	
	6	子育ての社会的状況	社会と家族の変化・保育における子育て支援・演習課題	
	7	家族・家庭	意義と機能、親子・家族関係の理解・演習課題	
	8	親としての育ち	親になるということ・ライフコースと子育て・子どもを育てる・演習課題	
	9	多様な家庭形態とその理解	多様な家庭・援助のポイント・アセスメント・演習課題	
	10	特別な配慮の必要性①	特別な配慮を必要とする家庭・予期せぬ出来事に遭遇した家庭	
	11	特別な配慮の必要性②	配慮・支援にあたってのポイント・演習課題	
	12	発達支援①	発達支援を必要とする家庭の実態・子どもを育てるということ	
	13	発達支援②	発達の遅れ・障害のある子ども・医療ケア児を育てる家庭支援・演習課題	
	14	子どもの精神保健	子どもの生活・生育環境・心の健康・成長と回復	
15	確認テストと振り返り	確認テストと振り返り		
評価の方法・基準	授業態度 20%・演習課題 40%・確認テスト 40%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学（みらい）			
必要な事前知識	教科書を精読すること。			
講師からのコメント	演習課題でアクティブに意見交換し、学びや意見を文章にまとめて見ましょう。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	子どもの理解と援助		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	① 子どもを理解するための基本的態度と方法を理解し、指導の基礎を培う。 ② 子どもの理解を深めるための考え方を理解し、目的に応じた記録にまとめる。 ③ 子どもの理解を共有して、保育実践の改善や実践に役立てる基礎を学ぶ。			
授業概要	子どもを理解することとはどういうことか、保育者に求められる子どもの理解の視点や、その方法・評価・子どもの理解に基づく発達援助を学ぶ。フォトセッションによって子どもの育ちを理解する。理論と実践を結びつけて子どもの理解と援助を学ぶことを大切に			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	子どもの理解の意義と原理	
	2	子どもを理解	共感的理解と子どもとの関わり	
	3	子ども理解の視点①	0歳児の理解と援助	
	4	子ども理解の視点②	1歳児の理解と援助	
	5	子ども理解の視点③	2歳児の理解と援助	
	6	子ども理解の視点④	3歳児の理解と援助	
	7	子ども理解の視点⑤	4歳児の理解と援助	
	8	子ども理解の視点⑥	5歳児の理解と援助	
	9	子ども理解の視点⑦	異年齢児の理解と援助	
	10	子ども理解と援助の実際①	職員間の対話	
	11	子ども理解と援助の実際②	こどもかいぎ①	
	12	子ども理解と援助の実際③	こどもかいぎ②	
	13	子ども理解と援助の実際④	観察・記録・評価：保育ドキュメンテーション①	
	14	子ども理解と援助の実際⑤	観察・記録・評価：保育ドキュメンテーション②	
15	確認テスト・振り返り	子どもの理解と援助についての確認テストと振り返り		
評価の方法・基準	確認テスト 40%・授業態度 20%・演習課題 40%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	シリーズ知のゆりかご なぜ? から探る 子ども理解と援助 (みらい)			
	保育所保育指針解説平成 30 年 3 月 (厚生労働省)			
	幼稚園教育要領解説 (文部科学省)			
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (内閣府他)			
必要な事前知識	教科書を精読する。実習体験の中で子どもを理解するために保育・教育の現場でどんな取り組みがあったかを整理する。			
講師からのコメント	理論で学ぶことと演習課題をして子どもの理解に繋げて行きます。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	子どもと体育		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：選択	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態 1号館3階ホール	
科目目標	① 子どもの発育発達に則した運動能力を理解する。 ② 運動遊びの指導法や必要な知識を習得することができる。 ③ 年齢にあった運動遊び（グループ・集団遊び、固定遊具遊び、鬼ごっこ遊び等）が考えられ指導できるようになる。			
授業概要	幼児期に必要な運動遊びを学び、最終的には自分たちで運動遊びを考え、発表・体験する。幼児の運動遊びについて研究を深め、子どもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学ぶ。			
授業計画	項目	内容		
	1	基礎感覚作り 4/13	幼児期における基礎感覚作りの意義を理解する	
	2	マット運動 4/20	幼児期におけるマット遊びの意義を理解する	
	3	マット運動 4/27	幼児期におけるマット遊びの意義を理解する	
	4	パラバルーン 5/11	パラバルーンにおけるやり方、指導方法を理解する	
	5	跳び箱運動 5/18	幼児期における跳び箱遊びの意義を理解する	
	6	跳び箱運動 5/25	幼児期における跳び箱遊びの意義を理解する	
	7	かけっこ 6/29	幼児期におけるかけっこのポイント、指導法を理解する	
	8	鉄棒 7/6	幼児期における鉄棒運動の意義を理解する	
	9	ボール・紅白玉運動 7/13	ボール、紅白玉を使用した乳児期、幼児期のボール遊びの意義を理解する	
	10	なわ遊び 7/20	幼児期におけるなわ遊びの意義を理解する	
	11	グループワーク考案 7/27	子どもの運動遊びの実践を考える	
	12	グループワーク発表① 8/10	子どもの運動遊びを、グループで実践する①	
	13	グループワーク発表② 8/24	子どもの運動遊びを、グループで実践する②	
	14	グループワーク発表③ 8/31	子どもの運動遊びを、グループで実践する③	
15	まとめ・振り返り 9/4	授業を振り返り、学んだことを確認する。		
評価の方法・基準	授業態度（25%）、意欲（25%）、グループワーク（50%）から総合的に評価する。			試験実施方法：授業内評価
テキスト	よくわかる！幼児期の運動遊び			
必要な事前知識	グループワーク考案に向けて、授業の後に毎回を復習することである			
講師からのコメント	保育士・幼稚園教諭の資格を取得しており、その知識を基に保育園での体育指導を行ったり、体操クラブでの幼児・児童の体操教室を実施している。この経験をもとに、スポーツで子どもに関わる上で知っておくべき知識を幅広く学んでいく。また、子どもとスポーツを楽しむ上ではルールの取り決めが重要となるので、現場でどのように子ども達に浸透させていくかも伝えていく。			
備考	10回目の授業の際に、なわを使用する			



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育の計画と評価		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 必修	単位数： 2	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 講義	教室形態： 401	
科目目標	① 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ② 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③ 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。			
授業概要	子どもの健やかな健康と育ちに関わる保育者は、環境を計画的に構成し、援助することが必要である。保育における計画、そしてその意義について学ぶ			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション 保育における計画の意義	授業の進め方や授業方法等について 計画はなぜ必要か	
	2	日本におけるカリキュラムの基礎理論	カリキュラムについて	
	3	子ども理解に基づく保育の循環	これから求められる教育の方向性	
	4	要領・指針の性格と位置づけ・改定（訂）内容	保育の質の向上のための取り組み	
	5	全体的な計画の作成の基本原則と方法	全体的な計画とは	
	6	指導計画の作成	指導計画の必要性	
	7	保育の評価	保育における評価とは	
	8	指導計画の作成書き方	指導計画とは	
	9	0歳児の指導計画	0歳児の指導計画について	
	10	1歳以上3歳未満児の指導計画	1歳以上3歳未満児の指導計画について	
	11	3歳児以上の指導計画	3歳児以上の指導計画	
	12	短期指導計画	短期指導計画について	
	13	保育WEB	保育WEBについて	
	14	小学校の接続	幼保小の接続について	
15	まとめ	保育の計画と評価の総まとめ		
評価の方法・基準	レポート40%、課題（指導計画書等）30%、授業態度30%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	教育・保育カリキュラム論（中央法規）			
必要な事前知識				
講師からのコメント	幼稚園教諭経験のある教員が、子どもの健やかな健康と育ちに関わる保育者として、環境を計画的に構成し、援助することが必要性を伝え、保育における計画、そしてその意義について学ぶ。			
備考	第12回;レポート課題指示、第14回;レポート課題提出、第15回;レポート課題返却			



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	保育内容総論		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期		単位区分：必修	単位数：1
週授業時間：2時限	授業回数：15回		授業形態：演習	教室形態：401
科目目標	<p>① 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」との関係を理解し、保育の全体的な構造を理解している。</p> <p>② 保育内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方と多様な教材や展開例について理解している。</p> <p>③ 保育内容の基本的な考えを、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・観察・記録・評価・改善）につなげて理解している。</p>			
授業概要	<p>保育の全体的な構造を、養護と教育に関わる保育の目標、教育・保育において育みたい資質・能力、そして教師・保育士が適切に関わることで見られる幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等との関わりより理解する。保育内容(教育内容も含め)がどのように考えられ、位置付けられてきたかについての概要を捉える。保育の全体的な構造を踏まえた保育の内容の展開の基本、つまり環境を通して行う教育、子どもの主体性を尊重する保育、生活や遊びによる総合的な保育、個と集団の発達を踏まえ保育、保育者の協働等についての具体的な教育・保育の展開について理解を深める。その過程において、「アクティブ・ラーニング」の視点から遊び、学びの質を高めていくためのあり様を（子どもたちのそれぞれの興味や関心、個に応じた対応、深い学び、振り返り等）を考え合う。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	授業の目的、授業の進め方、評価	
	2	保育の全体構造	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』等の構造	
	3	発達の特性と保育（乳幼児理解）	乳幼児の発達の理解と保育内容	
	4	発達の特性と保育（乳幼児保育実践）	乳幼児の発達を踏まえた保育実践	
	5	発達の特性と保育（3歳児の理解）	3歳児の発達の理解と保育内容	
	6	発達の特性と保育（3歳児の保育実践）	3歳児の発達を踏まえた保育実践	
	7	発達の特性と保育（4歳児の理解）	4歳児の発達の理解と保育内容	
	8	発達の特性と保育（4歳児の保育実践）	4歳児の発達の理解と保育実践	
	9	発達の特性と保育（5歳児の理解）	5歳児の発達の理解と保育内容	
	10	発達の特性と保育（5歳児の保育実践）	5歳児の発達の理解と保育実践	
	11	特別支援を要する子どもの保育	障害の理解と保育方法	
	12	世界の幼児教育・保育内容	世界で実践されている幼児教育・保育の理解	
	13	保幼小連携と接続(1)	保幼小連携と接続の在り方	
	14	保幼小連携と接続(2)	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の理解	
15	学修の振り返り	学習のまとめと振り返り、及び確認		
評価の方法・基準	学期末試験 80% 発表 20%			試験実施方法：筆記
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年)』（フレーベル館）			
	厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年)』（フレーベル館）			
必要な事前知識	日常のニュースの中で、幼児教育、保育に関する事例についてチェックしておくこと。			
講師からのコメント	保育内容総論に関するノートを一冊つくるイメージです。ノート筆記用具の準備をしてください。			
備考				

シラバス 【2023 年度】

作成年月日： 2023 年 4 月 1 日

科目名	子どもの指導法「音楽表現Ⅱ」		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2 年次	開講期間： 前期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2 時限	授業回数： 15 回	授業形態： 演習	教室形態： 501	
科目目標	① 子どもの音楽表現を豊かにするために「子どもの歌」を聴覚的、視覚的に考える。 ② 歌に沿った動きをとまなうことで、より一層子ども達へ伝えられるようになる。			
授業概要	子ども達の歌う活動を豊かにする視覚教材の制作と発表			
授業計画	項 目		内 容	
	1	オリエンテーション	子どもの歌とは、授業内容について	
	2	好きなものなーに	ふしぎなポケット・トマト・とんでったバナナ	
	3	動物となかよし 1	アイアイ・いぬのおまわりさん・ぞうさん	
	4	春をうたう	チューリップ・おはながわらった・ぶんぶんぶん	
	5	虫となかよし	とんぼのめがね・おつかいありさん・ありさんのお話	
	6	行事の歌	おかあさん・すてきなパパ・とけいのうた	
	7	動物となかよし 2	ぞうさんのぼうし・やぎさんゆうびん・山のワルツ	
	8	ともだちいっぱい	楽しいね・せんせいとおともだち・手をたたきましょう	
	9	遠足に行こう	そらでえんそくしてみたい・さんぽ・バスごっこ	
	10	雨すき？	あめふりくまのこ・ニャニニョのてんきよほう・ながつマーチ	
	11	夏を楽しむ	なみとかいがら・アイスクリームの歌・南の島のハメハメ八大王	
	12	秋を歌う	かぜさんだて・きのこ・真っ赤な秋	
	13	寒くなったね	コンコンクシヤンのうた。まつぼっくり・雪	
	14	クリスマスとお正月	あわてんぼうのサンタクロース・雪ってながつすきだっけ・お正月	
	15	楽しみな春	一年生になったら・ドキドキン一年生・ホ！ホ！ホ！	
評価の方法・基準	授業態度 20%、発表 40%、定期試験 40%			試験実施方法：実技
テキスト	ポケットいっぱいのお話		教育芸術社	
	音楽ノート		圭文社	
必要な事前知識				
講師からのコメント	子どもへの言葉かけ、言葉の選択、曲に関わる創作物の効果、表情など創意工夫を期待します。			
備 考				



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	子どもの指導法「リズム表現Ⅱ」		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 501 1号館 3階ホール	
科目目標	① 1年次の子どもの指導法「リズム表現Ⅰ」を基に、子ども達に音楽の楽しさを遊びを通して伝えることができる。 ② 保育者自身が身体で音楽を表現できる。			
授業概要	保育の中で、子ども達が楽しむ音楽活動の援助ができるように、実践的に役立つ演習を行う。			
授業計画	項 目		内 容	
	1	音楽発表に向けて1 10/13	役割分担を決める	
	2	音楽発表に向けて2 10/20	各パート練習1	
	3	音楽発表に向けて3 10/27	各パート練習2	
	4	音楽発表に向けて4 11/10	各パート練習3	
	5	音楽発表に向けて5 11/17	大道具、小道具制作1 4号館使用	
	6	音楽発表に向けて6 11/24	大道具、小道具制作2 4号館使用	
	7	音楽発表に向けて7 12/1	通し稽古1	
	8	音楽発表に向けて8 12/8	通し稽古2	
	9	音楽発表に向けて9 12/15	通し稽古3	
	10	音楽発表に向けて10 12/15	通し稽古4	
	11	子どもの劇場 12/22	発表	
	12	子どもの劇場 12/22	発表	
	13	楽器と親しむ1 1/12	ミュージックベル指導法 4号館501使用	
	14	楽器と親しむ2 1/19	合奏指導法 4号館501使用	
15	定期試験にむけて 1/26	まとめ 4号館501使用		
評価の方法・基準	授業態度20%、発表30%、定期試験50%			試験実施方法：実技
テキスト	「てぶくる」 ドレミ楽譜出版社			
	うたっておどっておもちゃ箱 教育芸術社			
必要な事前知識	お話の内容を理解して、想像力を働かせておきましょう。			
講師からのコメント	楽しさを伝えましょう。			
備 考	スカート不可、上履き持参、動きやすい服装で			

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	子どもの指導法「造形表現」		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 前期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 301	
科目目標	① 積極的に制作に取り組み、更なる表現力を高め、現場で活用できる制作物とすることができる。 ② 柔軟な素材を選択し、工夫を凝らした制作を、時間内にすることができる。 ③ 課題を実施するための準備、指導、片付けを演習ごとに担当して指導することができる。 ④ 毎回の振り返りを通して、改善する意欲をもつことができる。			
授業概要	保育士を志望するものとして、一年次に培った表現力や発想力、共同制作への姿勢をもとにして、保育園で活用できる発展的な制作を展開し、有益な指導法を探る。 制作の意図を他者に言葉で伝え、準備から片付けまで、園での子供の活動を想定した指導法を、演習や毎時間のふりかえりにて検証する。			
授業計画	項目		内容	
	1	園・施設実習の報告	オリエンテーション／各自の実習での体験を報告し、今後の造形の学びの参考とする。	
	2	キャラクター研究	「うさこちゃん」など、絵本のイラストから、子どもに親しみやすいキャラクターづくりを学ぶ。	
	3	どうぶつパペット 1	オリジナルのキャラクターを、姿形や性格から構想する。(7からの絵本課題の主人公とする。) 空き箱や紙コップ・布などの、任意の素材を用いて、動かせる人形を作り始める。／材料カット	
	4	どうぶつパペット 2	パーツ作り、彩色、組み立て。／早く出来た人は、絵本の一場面を想定したイラストを制作。	
	5	どうぶつパペット 3	仕上げ。発表用プリント記入。／キャラクター紹介発表、作品提出(次週返却予定)	
	6	リレー4コマ漫画演習	漫画の起承転結を学ぶ。／グループ演習：自分や同級生の作ったキャラクターが登場する4コマ漫画を、1人1コマずつ・前の人の続きを描いて完成させる。／発表・提出。	
	7	オリジナル絵本制作 1	絵本の簡単な作り方を学ぶ。／テーマを決め、内容を構想し、制作計画を立てる。コピー紙で仮の本を作って、ページ数と絵と文の構成を決める。(1人1冊、大きさはA4程度。)	
	8	オリジナル絵本制作 2	描画、彩色。	
	9	オリジナル絵本制作 3	描画、彩色。／テキスト準備(パソコンでの作成も可)。	
	10	オリジナル絵本制作 4	表紙・裏表紙制作など。／ページの貼り合わせ。	
	11	オリジナル絵本制作 5	細部の仕上げ、製本。／早く出来た人は、絵本を立て掛ける台を作る。	
	12	オリジナル絵本制作 発表	教室の壁側に並べて展示。一人ずつ発表、作品提出。 次回の「夏まつり」課題の作品分担(焼きそば屋、ヨーヨー釣り等)を、くじ引きで決める。	
	13	クラス展示「夏まつり」1	各々の担当の屋台の食品または品物の制作を始める。	
	14	クラス展示「夏まつり」2	制作の続き。／早く出来た人は、看板やPOP、のれん等を作る。／学園祭の準備に繋げる。	
15	クラス展示「夏まつり」発表	教室の両方の壁側に並べて展示。作品の発表。／2年間の造形のまとめ。		
評価の方法・基準	授業態度・振り返りシート50%、制作物40%、演示内容10%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ (ひかりのくに)			
必要な事前知識	制作時には机上に新聞紙等を敷き、服が汚れないようにエプロン等を着用すること。			
講師からのコメント	シラバス及び教員の指示に従って、次回の制作に必要な材料・用具を用意した上で授業に臨むこと。			
備考	授業は、2から12まで課題内容が続いており、7からの絵本制作は時間を要する。 遅刻・欠席をすると、授業内容に追いつけなくなる可能性があることを承知しておくこと。			



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	子どもの指導法「人間関係」		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 前期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	<p>① 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て人と関わる力を養うために必要な乳幼児が経験し身に付けていく内容と保育の留意点を理解する。</p> <p>② 乳幼児期の生活を通して様々な人と関わる経験と小学校以降の生活や教科等とのつながりを理解する。</p> <p>③ 乳幼児の特徴を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。</p>			
授業概要	<p>領域「人間関係」のねらいと内容について理解し、幼児の姿と特性を活かした遊びや生活等保育実践体験とを、関連させ理解を深める。乳幼児の発達を理解し、主体的・対話的で学びを実現する保育を、具体的に構想し実践する方法について学ぶ。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育を想定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「人間関係」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮し、具体的な指導方法を身に付ける。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	ねらい及び内容、全体像をつかむ・他領域との関係	
	2	保育・幼児教育の基本	子どもの姿・「資質・能力」の育成・保育者に求められること	
	3	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ①	乳幼児と人間関係における現代的課題	
	4	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ②	乳児における人と関わる力の発達と保育	
	5	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ③	1歳以上3歳未満児における人と関わる力の発達と保育	
	6	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ④	3歳以上児における人と関わる力の発達と保育	
	7	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ⑤	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」における発達と保育	
	8	子どもを学ぶ・子どもから学ぶ⑥	家族や地域との関わりにおける育ちと発達と保育	
	9	「人間関係」指導法	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における「人間関係」	
	10	指導計画と実践事例①	事例から①	
	11	指導計画と実践事例②	事例から②	
	12	小学校との接続・連携	実践事例・保育計画・	
	13	模擬保育①	指導案の作成	
	14	模擬保育②	実践	
15	確認テスト	確認テスト		
評価の方法・基準	演習課題 40%・ 確認テスト 40% 授業への取組みに対する意欲や態度 20%			試験実施方法： 授業内評価
テキスト	シリーズ知のゆりかご 人間関係 (みらい)			
	参考 保育所保育指針解説平成 30 年 (フレーベル館)			
	参考 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)			
	参考 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 (フレーベル館)			
必要な事前知識	保育・教育実習における現場での体験			
講師からのコメント	テーマに沿った演習課題を実施し、意見交換を重視する。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	乳幼児保育Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 前期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	① 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する ② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する ③ 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する			
授業概要	乳幼児保育Ⅰで学んだことをさらに深める 生活の基本について、一つひとつ具体的に進める 講義と演習を取り入れて授業を進める			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	授業の進め方や授業方法等について	
	2	乳児保育の意義	養護と保育が一体となって行われる乳児保育の意義について	
	3	0～3歳児までの発育・発達	0～3歳児までの発育・発達について	
	4	食事の援助と環境	授乳、離乳食の援助について	
	5	排泄の援助と環境	排泄への保育者の具体的な援助について	
	6	睡眠・休息の援助と環境	睡眠・休息の援助と環境について	
	7	着脱に関する援助と環境	着脱に関する援助と環境について	
	8	清潔に関する援助と環境	清潔に関する援助と環境について	
	9	乳児保育における健康と安全	乳児保育における健康と安全について	
	10	乳児（0歳児）の保育内容と遊び	乳児（0歳児）の保育内容と遊びについて	
	11	1歳以上3歳児未満児の保育内容	1歳以上3歳児未満児の保育内容について	
	12	1歳以上3歳児未満児の遊び	1歳以上3歳児未満児の遊びについて	
	13	乳児保育における計画と評価	乳児保育における計画と評価について	
	14	乳児保育を支える連携	乳児保育を支える連携について	
15	まとめ	授業総括		
評価の方法・基準	試験 80%、授業態度 20%			試験実施方法：筆記、実技
テキスト	演習で学ぶ乳児保育			
必要な事前知識				
講師からのコメント	保育園園長経験のある教員が、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、生活の基本について、一つひとつ具体的に進める。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	子どもの健康と安全		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 前期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 401	
科目目標	①子どもの心身の健康および安全に係わる保健活動の意義を理解し、保健計画を作成・活用することができる。②子どもの健康増進および心身の発育・発達と保健、及びその課題について基本的な知識を正しく理解し実践する力を身につける。③子どもへの適切な対応を図ることができると同時に、関係機関との連携について理解する。④保育環境の衛生管理と安全管理について理解し、実施できる。			
授業概要	子どもの健康を理解し乳幼児に特徴的な疾病とその種類、観察ポイント、判断、応急処置など保育士としての基礎的なことを学ぶ。保育者として必要な子どもの成長、発達、発育との関係や家庭および保育環境との関係を学び予防対策や安全教育、安全管理・子どもの健康の保持増進を促すための母子保健施策やサービスについて学び、活用できる資質を目指します。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	オリエンテーション/子どもの健康と保育の環境（演習）/生活しやすい園内環境	
	2	個別対応と集団全体の健康	保育における健康管理の意義/健康観察のポイント（演習）/健康診断	
	3	衛生管理	望ましい衛生環境/子どもたちが使うおもちゃの消毒方法/職員の衛生管理（演習）	
	4	事故防止および安全対策	保育施設での事故/保育における危険な箇所（演習）/防げる事故と防げない事故	
	5	災害への備えと危機管理	小テスト① 災害対策/地域のハザードマップを確認（演習）/災害時に求められる判断力と行動力	
	6	体調不良や傷害が発生した場合の対応	子どもの特徴/バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍）の測定（演習）/骨折捻挫脱臼打撲に対する応急処置（RICE法）	
	7	救急処置および救急蘇生法	小テスト② 子どもの事故とけが/子どもの救命救急法/事故発生時の対応	
	8	感染症の集団発生と予防、対応	感染症の基礎知識/嘔吐物処理の方法（演習）/感染症発症時の対応	
	9	保育における保健的対応	保健的対応と保育士/個別の配慮を要する子どもの保護者とのかかわり	
	10	3歳未満児への適切な対応	3歳未満児の特徴/乳幼児の成長のアセスメントを通して情報収集や観察（演習）	
	11	配慮を必要とする子どもへの対応	小テスト③ 個別の配慮を必要とする慢性疾患/アレルギー疾患をもつ子への配慮	
	12	障害のある子どもへの適切な対応	発達障害のある子どもを理解し、実際の保育を考えてみよう/発達障害のある子どもたちの手助けの方法（演習）	
	13	職員間の連携・協働と組織的取組	事例を通して連携、協働、ネットワークを考える（演習）/児童相談所の役割	
	14	保育における保健計画および評価	小テスト④ 保健計画の作成と活用/身体計測（演習）	
15	家庭・専門機関・地域との連携	子どもの健康と安全総括/子ども子育て支援新制度と地域子ども子育て支援事業の制度化/医療的ケアを必要とする子ども		
評価の方法・基準	授業への取り組みと提出物 60% 小テスト 40%を基本に総合的に判断する。			試験実施方法：授業内のみ
テキスト	子どもの健康と安全：編集：松田博雄・金森三枝，中央法規出版			
必要な事前知識	1年次に学んだ「子どもの保健」と重複する内容について、演習を実施。漢字を読めるようにすること。事前学習を十分に行うこと。			
講師からのコメント	助産師経験のある教員が、子どもの健康を理解し乳幼児に特徴的な疾病とその種類・観察ポイント・判断。応急処置など保育士としての基礎的なことを学ぶ。保育者として必要な子どもの成長、発達、発育との関係や家庭および保育環境との関係を学び予防対策や安全教育、安全管理・子どもの健康の保持増進を促すための母子保健施策やサービスについて学び、活用できる資質を目指す。			
備考	演習に必要な物品等については、講義の1週間前に具体的に指示する。なお、6講までに体温計は、各自用意すること。			



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	障害児保育Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：後期	単位区分：必修	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：401	
科目目標	<p>① 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。</p> <p>② 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。</p> <p>③ 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。</p>			
授業概要	<p>障害児保育Ⅰの授業内容を踏まえ、この科目では障がいをもつ子どもやその他特別な配慮を要する子どもへの具体的な援助方法を知り、保育現場で活用できる共遊玩具を作る機会を設定する。また、保護者や家族への支援、関係機関との連携・協働についても知ることで、視野を広げ、現場で求められる視点を養う。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	特別支援教育の理念 授業の進め方について	
	2	子ども理解に基づく計画の作成①	子どもの特性の理解	
	3	子ども理解に基づく計画の作成②	保育の計画の作成、個別指導計画の理解	
	4	発達をうながす環境と支援	個々の発達をうながす生活や遊びの環境	
	5	海外につながるのある子どもと家族への支援 ①	日本語科との合同授業 ①	
	6	海外につながるのある子どもと家族への支援 ②	日本語科との合同授業 ②	
	7	家庭との連携①	支援方法の理解 ①障害認知と保護者支援	
	8	家庭との連携②	支援方法の理解 ②行動への支援	
	9	障害の早期発見と支援	関係機関との連携	
	10	就学に向けての支援	就学相談、小学校との連携	
	11	園における指導・支援の実際①	事例研究と演習① 個に応じた指導・支援	
	12	園における指導・支援の実際②	事例研究と演習② 発達をうながす生活や遊びの環境	
	13	障がいのある子どもの保育に関わる現状と課題	他者とのかわりあいと育ちあい、支援の場の広がりにつながり	
	14	インクルーシブ教育システムの実現に向けて	I C F の考え方と障害像の変容 周りの子どもたちへの指導	
15	まとめ 課題レポートの作成	授業全体を通じて学んだことについてのまとめと確認		
評価の方法・基準	授業への取り組み 50%、提出物 50%		試験実施方法：授業内評価	
テキスト	前田泰弘編著「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(株) 萌文書林 2019			
必要な事前知識	教科書を事前に読んで授業に臨んでください。			
講師からのコメント	公立小学校副校長、特別支援学級担任、人材育成指導主事の経験のある教員が、その経験をもとに、障害児の特性や対応を事例を交えながら具体的に解説し、障害児との関りとはどういうものか、どんな点に注意できるかを理解できるように教授する。			
備考	第5～6回の授業は連続コマで行う計画です。詳細はオリエンテーションにてお伝えします。 また、コマの順番が入れ替わる可能性があります。ご承知おきください。			



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	社会的養護Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：必修	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：401	
科目目標	<p>① 社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。</p> <p>② 施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるために養護の基本原則に基づいた思考や判断ができる。</p> <p>③ 施設の保育士に必要なケースカンファレンスの基本的なスキルとして他者の意見を尊重し協調することができる。</p>			
授業概要	<p>社会的養護Ⅱでは、社会的養護Ⅰで学んだことを基本としつつ、施設養護や家庭養護の実際についてアクティブラーニング形式（個人ワークやグループワーク、事例検討、全体での意見交換）で体験的に学び理解を深める。具体的には、社会的養護における計画、記録、自己評価の実際にも触れながら、日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容、子どもの福祉にかかわる実践力を身につけ、施設の保育士に求められる倫理・資質について演習を通して学ぶ。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	子どもの権利擁護	・子どもの権利擁護の基本 ・[演習]権利擁護のための具体的な取り組みや支援	
	2	社会的養護における子どもの理解	・子どもの理解を深めるには ・[演習]子どもの課題のアセスメントと支援	
	3	社会的養護の内容①	・日常生活の支援 ・[演習]子どもの課題のアセスメントと支援方法	
	4	社会的養護の内容②	・心理的支援 ・[演習]多面的視点によるケース理解	
	5	社会的養護の内容③	・社会的養護の子どもの自立とは ・[演習]自立支援の方法と課題（動画）	
	6	施設養護の生活特性および実際①	・乳児院の生活特性 ・[演習]乳児院における生活と課題（動画）	
	7	施設養護の生活特性および実際②	・児童心理治療施設の生活特性 ・[演習]児童心理治療施設における生活と課題（動画）	
	8	施設養護の生活特性および実際③	・児童自立支援施設の生活特性 ・[演習]児童自立支援施設における生活と課題（動画）	
	9	施設養護の生活特性および実際④	・障害児施設の生活特性 ・[演習]障害児施設における生活と課題（動画）	
	10	家庭養護の生活特性および実際	・家庭養護とは ・[演習]養育里親、養子縁組里親の現状と支援（動画）	
	11	アセスメントと個別支援計画の作成	・アセスメントと個別支援計画 ・[演習]アセスメントと個別支援計画の作成	
	12	記録および自己評価	・記録の意義と役割 ・自己評価 ・[演習]記録と自己評価の視点（動画）	
	13	社会的養護における保育の専門性	・社会的養護における保育の専門性 ・[演習]被虐待児の理解とかわり方	
	14	社会的養護にかかわる相談援助の実際	・相談援助とは ・ジェネラリストソーシャルワーク ・[演習]ソーシャルワークの視点	
15	社会的養護におけるソーシャルワーク	・社会的養護実践におけるソーシャルワーク ・[演習]エコマップ・ジェノグラムを読み解く		
評価の方法・基準	定期試験：40%、リアクションペーパー・ワークシート等：40%、授業に対する取り組み：20%			試験実施方法：筆記
テキスト	新基本保育シリーズ18「社会的養護Ⅱ」（中央法規）			
必要な事前知識	社会的養護Ⅰ			
講師からのコメント	社会的養護Ⅰの知識を基本に、演習を中心に進めます。グループディスカッションの中でカンファレンスの基本的姿勢を習得してください。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	子育て支援		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：必修	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：401	
科目目標	<p>① 子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援体制について理解することができる。</p> <p>② 子育て支援の意義・内容・方法等を理解し、活用することができる。</p> <p>③ 処遇困難事例（福祉的な対応を要するケース）に対し、保育現場でどのように保育ソーシャルワークを実践していけるかを考察し、その重要性を説明することができる。</p>			
授業概要	<p>今日、日本の少子化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっている。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしている。そこで、本授業では子育て支援における現状とその支援のあり方について保育所での実例を中心に、保育者に求められる基本的態度やソーシャルワークの過程について、アクティブラーニング形式（個人ワークやグループワーク、事例検討、全体での意見交換）で体験的に学び、さらに演習の振り返りと解説を加えながら理解を深める。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	子どもの保育とともに行う保護者の支援	・保育所保育と家庭育児について ・[演習]保育所に通っていない子どもの保護者支援	
	2	保護者との相互理解と信頼関係の形成	・保護者との相互理解 ・[演習]ロールプレイを通じた受容的態度の理解	
	3	支援ニーズの気づきと多面的理解	・保護者や家庭の現状 ・[演習]保護者のニーズをとらえる	
	4	子ども・保護者の状況・状態の把握	・子育て支援におけるプロセスの意義 ・[演習]事例に基づいたアセスメント	
	5	支援計画の作成と環境の構成	・目標の設定 ・[演習]自立支援計画の作成と環境構成	
	6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	・支援の実践 ・[演習]支援の実践と評価の視点	
	7	職員間の連携・協働	・職員間の連携・協働の必要性 ・[演習] 連携・協働の必要性、スーパービジョン	
	8	社会的資源の活用	・社会的資源とは何か ・[演習]社会資源マップの作成	
	9	保育所等における支援	・子育ての悩み、相談内容 ・[演習] 事例をとした家庭支援（連絡帳への記載）	
	10	地域の子育て家庭に対する支援	・地域における子育てニーズ ・[演習] 地域における子育て支援について考える	
	11	障害児およびその家庭に対する支援	・障害を理解する ・[演習] 障害児の理解、家庭に対する支援方法（動画）	
	12	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	・家庭に特別な配慮が必要な場合 ・[演習]子どもの視点からの事例検討	
	13	子どもの虐待の予防と対応	・児童虐待の背景 ・[演習]事例から虐待の疑いについて検討する	
	14	要保護児童等の家庭に対する支援	・社会的養護と児童養護施設の理解 ・[演習]家庭の社会的つながりについての理解	
15	多様な支援ニーズをかかえる家庭	・多文化共生社会の現状と政策 ・[演習]多文化保育の視点から外国人保護者への支援		
評価の方法・基準	定期試験：40%、リアクションペーパー・ワークシート等：40%、授業に対する取り組み：20%			試験実施方法：筆記
テキスト	新基本保育シリーズ19「子育て支援」（中央法規）			
必要な事前知識	子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ、障害児保育			
講師からのコメント	問題解決志向を基本に演習の課題の表面的な部分ではなく、そこから考えられる背景など多面的な視点を習得してください。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	保育・教職実践演習 I		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期	単位区分：必修	単位数：1	
週授業時間：2時限	授業回数：15回	授業形態：演習	教室形態：401	
科目目標	<p>① 保育士としての必要な知識・技術、専門職としての倫理観等について自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>② 保育実習を通じた体験や収集した情報に基づき、保育現場について多様な視点から学びを深める。</p> <p>③ 1及び2を踏まえ、自己課題を明確化すると共に、保育実践に必要な資質・能力の定着を図る。</p>			
授業概要	<p>保育実習を通じた自らの経験や収集した情報を振り返り、自身の課題を明確にすると共に、保育士として必要な専門的な知識及び技術向上につなげる。実習系経験の振り返りを共有することで自身の視野を広げると共に、資質向上につなげる。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	授業内容について確認・エプロンシアターについて(構図考案)	
	2	エプロンシアター製作①	各自製作①	
	3	エプロンシアター製作②	各自製作②	
	4	エプロンシアター製作③	各自製作③	
	5	エプロンシアター製作④	各自製作④	
	6	エプロンシアター製作⑤	各自製作⑤	
	7	エプロンシアター発表①	発表①	
	8	エプロンシアター発表②	発表②	
	9	エプロンシアター発表③	発表③	
	10	実習振り返り資料作成①	資料作成①	
	11	実習振り返り資料作成②	資料作成②	
	12	発表①	発表①	
	13	発表②	発表②	
	14	発表③	発表③	
15	発表④ まとめ	発表④ 授業のまとめ		
評価の方法・基準	エプロンシアター製作・発表 40%・実習振り返り内容 40%・授業態度 20%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	特になし			
必要な事前知識				
講師からのコメント	<p>幼稚園、保育園園長計経験のある教員が携わり、実習での保育内容や指導方法、乳幼児・児童理解に関する知識を深める。実習前には、準備のための事前指導(ガイダンス)、終了後には反省会を実施する。実習報告会では、実習を通して学んだことや体験を報告しあい、相互の学びとする。</p>			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育・教職実践演習Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 必修	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 201、401	
科目目標	① 保育実習Ⅱ・Ⅲを自ら振り返り、得られた知見や自己課題を正しく伝える。 ② 保育ニーズを把握し、総合的な保育を展開していくための知識や技術を身につけ実践力を養う。			
授業概要	保育実習を通じた自らの経験や収集した情報を振り返り、自身の課題を明確にすると共に、保育士として必要な専門的な知識及び技術向上につなげる。実習系経験の振り返りを共有することで自身の視野を広げると共に、資質向上につなげる。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション	授業計画や発表内容について確認する。	
	2	実習Ⅱ・Ⅲの振り返り①	発表原稿準備①	
	3	実習Ⅱ・Ⅲの振り返り②	発表原稿準備②	
	4	実習Ⅱ・Ⅲの振り返り③	発表原稿準備③	
	5	発表①	発表及び討論①	
	6	発表②	発表及び討論②	
	7	発表③	発表及び討論③	
	8	発表④	発表及び討論④	
	9	保護者支援について	保護者の支援の在り方について学ぶ	
	10	多様な保育について	「自由保育」について学ぶ	
	11	保育の中での造形活動	造形活動について学ぶ	
	12	家庭援助について①	家族機能の変化について学ぶ	
	13	家庭援助について②	社会資源とは何かについて学ぶ	
	14	子どもと家族を支える機関について①	専門機関と地域活動を知る①	
15	子どもと家族を支える機関について②	専門機関と地域活動を知る②		
評価の方法・基準	振り返り及び発表内容 60%・講義内容の理解 20%・授業態度 20%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	特になし			
必要な事前知識				
講師からのコメント	幼稚園、保育園園長計経験のある教員が携わり、実習での保育内容や指導方法、乳幼児・児童理解に関する知識を深める。実習前には、準備のための事前指導(ガイダンス)、終了後には反省会を実施する。実習報告会では、実習を通して学んだことや体験を報告しあい、相互の学びとする。			
備考				

シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育教材研究Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次： 2年次	開講期間： 後期	単位区分： 選択	単位数： 1	
週授業時間： 2時限	授業回数： 15回	授業形態： 演習	教室形態： 301	
科目目標	① 教材の意味や重要性を知る。 ② 発達に沿った教材開発ができる。 ③ 製作のねらいを明確に示すことができる。 ④ 発表を通して、教材の活用方法を身につけ実践できる。			
授業概要	保育や児童福祉現場における教材の重要性を学ぶとともに、演習を通して教材開発に取り組み、教材作りに慣れ親しむ。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション ハロウィン製作①	保育教材の意味や重要性を知る。 ハロウィンの帽子を製作。 配布材料：色ラシャ紙（黒、および橙など数色）	
	2	ハロウィン製作②	ハロウィンのマントを製作。 配布材料：カラーポリ袋（黒） 作品発表、提出。	
	3	手袋シアター製作①	導入：保育教材としての手袋シアターについて、製作説明。 曲目または物語選択、デザイン画考案、下描き。 配布材料：手袋（グリーン）	
	4	手袋シアター製作②	製作：材料切り出し、縫製。	
	5	手袋シアター製作③	製作：縫製、接着、細部作成。 / 早く仕上げた人は、2作品目か、指人形を作る。	
	6	手袋シアター製作④	製作：細部作成、仕上げ。	
	7	手袋シアター 発表	① 製作の振り返り、②作品発表、（意見交換）、提出。	
	8	クリスマス製作①	教材を決めて、製作計画を立てる。年齢・発達段階を選定し、ねらい、デザイン、製作過程を考案選定する。	
	9	クリスマス製作②	考案に沿った教材製作、仕上げ。 / 早く仕上げた人は、季節のポストカードを作る。	
	10	クリスマス製作 発表	① 製作の振り返り、②作品発表、（意見交換）、提出。	
	11	型紙を用いた壁面製作①	壁面の型紙を選定、壁面製作。	
	12	型紙を用いた壁面製作②	仕上げ、作品発表、提出。	
	13	ひな祭り製作①	教材を決めて、製作計画を立てる。年齢・発達段階を選定し、ねらい、デザイン、製作過程を考案選定する。	
	14	ひな祭り製作②	考案に沿った教材製作、作品提出。	
15	ひな祭り製作発表 / まとめ	① 製作の振り返り、②作品発表、提出。 / 半期の振り返り。		
評価の方法・基準	授業態度・振り返りシート 50%、製作物 40%、発表 10%		試験実施方法：授業内評価	
テキスト	特になし。			
必要な事前知識	事前に年齢・発達段階を想定した上で、おおよそのデザインを検討しておくこと。			
講師からのコメント	シラバス及び教員の指示に従って、次回の製作に必要な材料・用具を用意した上で、授業に臨むこと。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育実習Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期		単位区分：選択必修	単位数：2
週授業時間：1日8時間	授業回数：10日間		授業形態：実習	教室形態：保育所
科目目標	① 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ② 子どもの観察や関わりの方角を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③ 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④ 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥ 実習における自己の課題を明確化する。			
授業概要	本実習は、保育実習指導Ⅱにおいて保育実習Ⅰを振り返り、実際の保育所において、10日間・90時間以上の保育実習を行うものである。日々の実習に対する指導は、配属先の実習担当職員等に一任する。担当教員は、その実習先との調整を行ったり、実習の途中で、養成校としてのフォローを行う。			
授業計画	項目		内容	
	1	保育所の役割や機能の具体的展開	① 養護と教育が一体となって行われる保育 ② 保育所の社会的役割と責任	
	2	観察に基づく保育の理解	① 子どもの心身の状態や活動の観察 ② 保育士等の援助や関わり ③ 保育所の生活の流れや展開の把握	
	3	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	① 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 ② 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③ 関係機関や地域社会との連携・協働	
	4	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	① 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ② 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価	
	5	保育士の業務と職業倫理	① 多様な保育の展開と保育士の業務 ② 多様な保育の展開と保育士の職業倫理	
	6	自己の課題の明確化	保育実習の実際について、まとめる	
評価の方法・基準	基本的には、実習先に記載してもらう評価表の評価を尊重する。 ただし、場合によっては実習先と養成校で協議をして評価することもある。			試験実施方法：実習
テキスト	特になし			
必要な事前知識	保育実習指導Ⅱの内容を十分に振り返ると共に、健康に留意して実習に臨むこと。			
講師からのコメント	幼稚園、保育園園長経験のある教員が携わり、保育実習Ⅰを振り返り、実際の保育所において10日間・90時間以上の保育実習を行うものである。日々の実習に対する指導は、配属先の実習担当職員等に一任する。担当教員は、その実習先との調整を行ったり、実習の途中で、養成校としてのフォローを行う。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	保育実習Ⅲ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期		単位区分：選択必修	単位数：2
週授業時間：1日8時間	授業回数：10日間		授業形態：実習	教室形態：施設
科目目標	<p>① 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。</p> <p>② 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障がい児者支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を修得する。</p> <p>③ 保育士の業務内容や職業倫理について実践に結びつけて理解する。</p> <p>④ 実習における自己の課題を理解する。</p>			
授業概要	<p>本教科は、保育実習指導Ⅲを踏まえた上で、実際の児童福祉施設等（保育所以外）において、10日間・80時間以上（休憩を除く）実習を行うものである。日々の実習に対する指導は、配属先の実習担当職員等に一任する。担当教員は、実習先との受入調整、実習期間中の指導、実習後のフォローを行う。</p>			
授業計画	項目		内容	
	1	児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能	<p>③ 養護と教育が一体となって行われる保育</p> <p>④ 保育所の社会的役割と責任</p>	
	2	施設における支援の実際	<p>④ 受容し、共感する態度</p> <p>⑤ 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども（利用者）理解</p> <p>⑥ 個別支援計画の作成と実践</p> <p>⑦ 子ども（利用者）の家族への支援と対応</p> <p>⑧ 各施設における多様な専門職との連携・協働</p> <p>⑨ 地域社会との連携・協働</p>	
	3	保育士の業務と職業倫理	<p>④ 多様な保育の展開と保育士の業務、職業倫理</p> <p>⑤ 入所または通所している子ども（利用者）の保護者（家族）に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援</p> <p>⑥ 関係機関や地域社会との連携・協働</p>	
	4	保育士としての自己課題の明確化	保育実習の実際についてまとめる	
評価の方法・基準	実習先が評価する。ただし、実習先と協議をして評価することがある。			試験実施方法：実習
テキスト	特になし			
必要な事前知識	保育実習指導Ⅲの内容を十分に振り返ると共に、健康に留意して実習に臨むこと。			
講師からのコメント	幼稚園、保育園園長経験のある教員が携わり、保育実習Ⅰを振り返り、実際の保育所において10日間・90時間以上の保育実習を行うものである。日々の実習に対する指導は、配属先の実習担当職員等に一任する。担当教員は、その実習先との調整を行ったり、実習の途中で、養成校としてのフォローを行う。			
備考				



シラバス【2023年度】

作成年月日： 2023年4月1日

科目名	保育実習指導Ⅱ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期		単位区分：選択必修	単位数：1
週授業時間：2時限	授業回数：15回		授業形態：演習	教室形態：401
科目目標	① 保育所・施設実習の意義・目的を再確認し、より理解を深める。 ② 実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ③ 観察・記録の方法や内容、また指導案の書き方について具体的に理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。			
授業概要	各実習では、保育内容や指導方法、乳幼児・児童理解に関する知識を深める。実習前には、準備のための事前指導(ガイダンス)、終了後には反省会を実施する。実習報告会では、実習を通して学んだことや体験を報告しあい、相互の学びとする。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション (合同)	授業内容について確認	
	2	保育所の実際について学ぶ (合同)	保育所職員講話 外部講師招聘予定	
	3	実習関連書類の作成	個人票・誓約書等の作成・確認	
	4	指導案の作成①	指導案ねらい・内容について理解する	
	5	指導案の作成②	指導案ねらい・内容について理解する	
	6	教材の作成①	指導案を基に必要な教材を作成する	
	7	教材の作成②	指導案を基に必要な教材を作成する	
	8	実習書類内容確認	送付準備・オリエンテーション等の確認	
	9	模擬保育①	指導案を基に模擬保育を行う	
	10	模擬保育②	指導案を基に模擬保育を行う	
	11	模擬保育③	指導案を基に模擬保育を行う ※日誌配布	
	12	子ども理解について学ぶ (合同)	子ども理解を基にした適切な援助の在り方について学ぶ	
	13	施設利用者理解について学ぶ (合同)	利用者への支援方法について学ぶ	
	14	指導案・日誌の作成	部分実習用指導案作成 質疑応答	
15	指導案の作成 実習前最終確認	実習に関する再確認する 必要書類配布		
評価の方法・基準	指導案等の作成 30% 模擬保育 40% 書類の提出 20% 授業態度 10%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	参考書：保育所保育指針 (フレーベル館)			
必要な事前知識	事前学習を行って授業に臨む。			
講師からのコメント	幼稚園、保育園園長計経験のある教員が携わり、実習での保育内容や指導方法、乳幼児・児童理解に関する知識を深める。実習前には、準備のための事前指導(ガイダンス)、終了後には反省会を実施する。実習報告会では、実習を通して学んだことや体験を報告しあい、相互の学びとする。			
備考	講師の都合により講和日程が変更になる可能性あり。			



シラバス【2023年度】

作成年月日：2023年4月1日

科目名	保育実習指導Ⅲ		学科・コース	保育士養成科
開講年次：2年次	開講期間：前期		単位区分：選択必修	単位数：1
週授業時間：2時限	授業回数：15回		授業形態：演習	教室形態：401、201
科目目標	① 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、福祉施設等の役割に機能について実践を通して理解する。 ② 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ③ 施設実習の意義を再確認し、自己の課題を理解する。			
授業概要	本教科では、保育実習Ⅰを踏まえながら、保育実習Ⅲに向けて自己課題を明確にすると共に、施設保育士の業務、職業倫理について知り、子ども（利用者）理解に努める。また、各々の実習に向け、具体的な実習計画の立案など事前指導（ガイダンス）を実施する。			
授業計画	項目		内容	
	1	オリエンテーション（合同）	授業内容について確認	
	2	保育所の実際について学ぶ（合同）	保育所職員講話	
	3	施設について学ぶ	学童クラブ、子育て支援拠点	
	4	実習関連書類の作成	個人票・誓約書等の作成・確認	
	5	主観と客観について学ぶ	自身のコミュニケーションスキルを知る（ワーク）	
	6	実習計画の立案①	本実習に対する課題を明確にする。配属施設について調べる	
	7	実習計画の立案②	実習目標と具体的達成課題を立案する	
	8	施設保育士としての実践力の育成①	保育の知識・技術を活かした保育実践①	
	9	施設保育士としての実践力の育成②	保育の知識・技術を活かした保育実践②	
	10	実習日誌の記述練習①	エピソード記述の練習①	
	11	実習日誌の記述練習②	エピソード記述の練習②	
	12	子ども理解について学ぶ（合同）	子ども理解を基にした適切な援助の在り方について学ぶ	
	13	施設利用者理解について学ぶ（合同）	利用者への支援方法について学ぶ	
	14	保育所に対する理解	保育施設について再確認する	
15	施設に対する理解	施設の役割について再確認する		
評価の方法・基準	課題・提出物 50%、授業への取り組み・態度 50%			試験実施方法：授業内評価
テキスト	参考書：保育士をめざす人のための施設実習ガイド（みらい）			
必要な事前知識				
講師からのコメント	幼稚園、保育園園長経験のある教員が携わり、実習での保育内容や指導方法、乳幼児・児童理解に関する知識を深める。実習前には、準備のための事前指導（ガイダンス）、終了後には反省会を実施する。実習報告会では、実習を通して学んだことや体験を報告しあい、相互の学びとする。			
備考	講師の都合により講話日程が変更になる可能性があります。 テキストは保育実習指導Ⅰで使用した教科書です。			